

## 【資料2】

# 食見地区周辺海域調査

## 1 はじめに

海浜自然センターが位置する食見海岸は、常神半島と黒崎半島に囲まれた世久見湾南部にある。湾内の4箇所30.2haの海域は、すぐれた海中景観を有することから、福井県では唯一の海域公園（三方海域公園）に指定されている。これらの海域において継続的な調査により藻場や生物相の現状把握に努めることは、当該海域の環境保全および普及啓発を推進する上で重要といえる。そこで、当センターでは平成11年度から当該海域において藻場や生物相の調査を継続的に実施している。

## 2 調査内容と結果

### (1)海水温測定

#### ①調査地点および方法

センター地先船着き場内において、可能な限り毎日午前9時に表層から1m以浅で水温の測定を行った。

#### ②結果

図1に平成25年度と平成26年度の測定値の各月の平均値のグラフを示した。また、表1に各月の平均値を示した。

平成26年度の水温を平成25年度と比較すると、2月と3月を除いて低めで推移した。

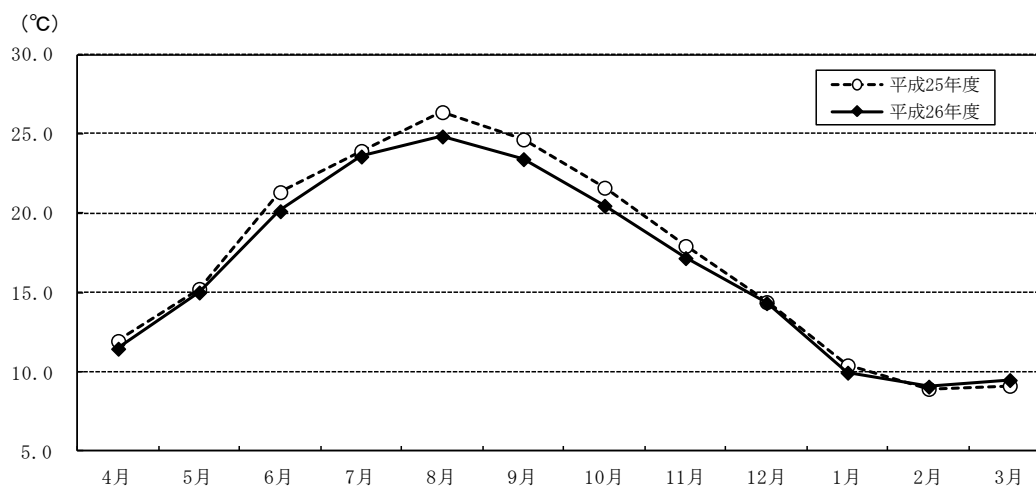


図1 センター前月別平均水温（平成26年度）

表1 センター前月別平均水温

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平成25年度	12.0	15.2	21.3	23.9	26.4	24.7	21.6	17.9	14.4	10.4	8.9	9.1
平成26年度	11.5	15.0	20.1	23.6	24.8	23.4	20.5	17.2	14.3	10.0	9.1	9.5

## (2)生物相調査

### ①調査地と方法

調査は、平成 26 年 11 月 6 日に世久見湾奥の海浜自然センター北側に隣接する遊歩道地先海域において実施した。

3m四方のコドラートを3箇所設置し(図2:St.1~3)、スノーケリングによる目視観察によって、コドラート内に出現した無脊椎動物(軟体動物、甲殻類、棘皮動物、環形動物、刺胞動物)、魚類について記録した。目視観察は、3人で1コドラートにつき20分間行い、表2の基準にしたがって記録した。いずれの分類群についても微小な個体や岩の下、割れ目の奥などに隠れているものは調査対象から除外した。



図2 生物相調査場所

表2 記録方法

分類群	記録方法	
無脊椎動物	軟体動物(貝類・イカ類・タコ類)、甲殻類(エビ類・カニ類)、棘皮動物(ヒトデ類・ウニ類・ナマコ類・ウミシダ類)、環形動物(ケヤリムシ類)	1~9個体:- 10~19個体:+ 20個体以上:++
	刺胞動物(イソギンチャク類・クラゲ類)	被度1%未満:- 被度1%以上:+
魚類	種類と個体数について記録する。A:1個体 B:2~10個体 C:11~50個体 D:51個体以上	

### ②結果

調査地の水深は、St.1が0.8~2m、St.2が1.2m、St.3が2~3.5mであった。底質は、St.1では砂利の中に転石が点在していた。St.2およびSt.3では巨礫が主体であった。結果を表3,4に示した。無脊椎動物については、8目12科17種、魚類については、3目12科14種が確認された。

表3 定点調査地点結果（無脊椎動物）

綱	目	科	種名	St. 1	St. 2	St. 3
腹足	古腹足	ミミガイ	トコブシ	-		
		ニシキウズ	オオコシダカガンガラ	+	+	
			クボガイ	-		
		サザエ	サザエ			
	ウラウズガイ					-
	ニキウズガイ	ヒメクボガイ	+	-		
	新腹足	レイシガイ	レイシガイ	-	-	-
	裸鰓	イロウミウシ	コモンウミウシ			-
二枚貝	カキ	イタボガキ	イワガキ			-
ウニ	ホンウニ	オオバフンウニ	バフンウニ		+	
			アカウニ		-	
		ナガウニ	ムラサキウニ	++	+	
ウミユリ	ウミシダ	ウミシダ	ウミシダ			-
ヒトデ	アカヒトデ	イトマキヒトデ	イトマキヒトデ	-	-	
クモヒトデ			クモヒトデ		-	
海綿			カイメン	+		-
多毛	ケヤリムシ	ケヤリムシ	ケヤリムシ		-	
8綱	8目	12科	17種	8種	9種	7種

表4 定点調査地点結果（魚類）

目	科	種名	St. 1	St. 2	St. 3
スズキ	スズメダイ	スズメダイ			B
	ベラ	キュウセン		A	A
		ホシササノハベラ		A	
		ホンベラ		B	B
	ヘビギンポ	ヘビギンポ	A	A	A
	メジナ	メジナ			A
	イシダイ	イシダイ	A		
	ウミタナゴ	ウミタナゴ	A		
フグ	カワハギ	カワハギ		A	A
	フグ	ショウサイフグ	A	A	A
カサゴ	アイナメ	クジメ		A	
	カジカ	キヌカジカ	A		A
	フサカサゴ	カサゴ	A		A
	メバル	メバル	A		
3目	12科	14種	7種	7種	9種

### (3)魚類相調査

#### ①調査地と方法

調査地は、常神半島の常神地先と烏辺島周辺において実施した（図 3）。調査は、スノーケリングリーダーに協力して頂き、平成 26 年 7 月 13 日～8 月 31 日に計 4 回、スノーケリングによる目視調査により実施した。調査時の水温と調査人数、調査時間については、表 5 に示した。



図 3 魚類相調査地点

表 5 魚類相調査実施方法

月日	海浜センター前水温 (°C)	調査人数	調査時間	調査場所
7月13日	22.8	7	11:00～13:00	烏辺島周辺
8月17日	24.3	13	11:15～13:30	烏辺島周辺
8月23日	26.3	15	11:30～15:00	常神地先
8月31日	25.1	11	11:30～15:00	常神地先

#### ②結果

平成 23 年度から 25 年度の調査結果と本年度の調査結果を表 6 に示した。7 月 13 日の調査では 26 種、8 月 17 日では 32 種、8 月 23 日では 28 種、8 月 31 日では 30 種が確認され、調査期間全体を通して 5 目 25 科 51 種の魚類が確認された。確認種類数は、8 月 17 日の調査時に最も多く、8 月 31 日の調査時には、それに次いで多くの種が確認された。調査期間全体を通して確認種類数は平均 29 種類であり、種類数の大きな変動は無かった。また、本年度の調査時において、新たにヨロイメバル、アサヒアナハゼ、ソラスズメダイ、シロギス、タカノハダイ、およびキンチャクダイが確認された。これらの魚種は、従来から当センターで実施しているスノーケリング体験等において確認が報告されていたが、調査時に確認されたのは初めてであった。

4 年間の調査全体を通して出現率が最も高い魚種はホンベラであり、次いでメジナ、キュウセンおよびヘビギンポの出現率が高かった。

今後も本調査を継続して実施することによって、当センター周辺の魚類相の知見を蓄積し、センター周辺の自然環境の把握に努めていく。



#### (4)ウミガメ調査

##### ①目的

定置網で混獲されたウミガメ類を調査することにより、日本海におけるウミガメ類の回遊状況解明の一助とする。

##### ②調査地と方法

沿海漁協へ調査表を配布し、ウミガメ類が混獲された場合に報告をうける体制を平成 17 年から整えている。混獲されたウミガメ類が、漁港まで運搬されている場合、現地に赴き、種名、大きさ（甲長、甲幅）などを記録した。

##### ③結果

タイマイ 1 頭、ウミガメ（不明）1 頭、ミンククジラ 1 頭の報告があった（表 7）。ウミガメの回遊ルートについては不明な点も多く、今後も漂着および混獲等の情報を蓄積し、日本海における生態や回遊経路の解明のための知見の蓄積が必要である。

表 7 ウミガメ等調査結果

発見日	種名	発見場所等		区分	大きさ			処理	備考
					甲長	甲幅	体重		
2015年1月16日	ミンククジラ	はまなす海岸（高浜）	海水浴場	成体	5.7m			廃棄	斃死していたため、廃棄処分
2015年1月17日	ウミガメ（種不明）	はまなす海岸（高浜）	海水浴場	不明	不明			廃棄	高浜町より連絡
2015年2月	タイマイ	河野海岸	海岸	不明	不明			廃棄	